

復興桜に願い込め

東日本大震災の被災地で、桜を介した復興への取り組みが広がっている。「ふるさとでもう一度花見を」「植樹を再生の象徴に」。目的はさまざまだが、被災者や支援者は淡紅色に希望を重ね、再び立ち上がろうとしている。

「絶望、希望に変える」



「避難指示が解けたら、このことと同じように桜にあふれた故郷で真っ先に店を再開したい」。福島市の桜の名所、花見山の麓の庭園で4月上旬、小牛田一男さん(65)は手打ちそばを花見客らに振る舞い力を込めた。

老後の楽しみにと震災前年に福島県南相馬市で始めたそば店は、東京電

力福島第1原子力発電所事故で奪われた。福島市での避難生活にふさぎ込む日々だったが、今年2月、「うちでそばを打って下さい」と依頼が舞い込んだ。

声をかけたのは、地元ボランティア団体「花見山を守る会」代表の高橋真一さん(47)。庭園のある自宅を避難者の集いの場として開放してお

り、小牛田さんは高橋さん宅で月2回、そば店を臨時営業できるようになった。

高橋さんは「桜には絶望を希望に変える力がある。全避難者が生活を再建するまで支援したい」と話す。

津波で700人以上が犠牲になった宮城県名取

市岡上地区では、震災後に花を咲かせた桜から育てた苗木「復興桜」3千本を植樹するプロジェクトが進む。

中心メンバーの一人、会社役員の前々木悠輔さん(33)は「岡上の桜のように力強く生きることが我々の使命と考ええる。地元の開上中学は3年後

に完成する新校舎の校庭に復興桜を植えようと、今春から仮設校舎で苗木栽培を始めた。

武田和義校長(59)は「震災の記憶を風化させないよう、復興桜を題材に語り継いでいければ」と話す。

岩手県陸前高田市では、地元住民らがNPO法人「桜ライン311」

を設立。1700㎡に及ぶ市内の津波到達地点を1万7千本の桜並木に変えることを目指す。

「津波を思い出したくない」と地権者に断られることもある。だが、代表の岡本翔馬さん(32)は「桜並木という形で震災を風化させないことに理解を求めていきたい」と前向きだ。



韓国大統領が追悼

旅客船沈没から1年

【ソウル】小倉健太郎「韓国大統領朴槿恵(パク・クネ)が沈没し、304人が死

韓国の旅客船セウォル号が沈没し、304人が死

亡・行方不明となった事故から1年となる16日、

16日、事故現場に近い韓国南西部・珍島を訪れた朴大統領(中央)＝聯合共同

朴槿恵(パク・クネ)大統領は事故現場に近い南西部・珍島の港を訪れ、犠牲者を追悼した。李内閣イ

・ジョンギ大統領秘書室

全庁の朴仁鎔(パク・イヨン)長官が孝完(クワン)・ワング)首相のメッセージを代読し、安全確保に向けて政府と国民の協力が重要だと強調した。

しかし韓国国内では、大統領が遺族らが開催した慰霊祭に参加しないことを批判的にみる向きもある。遺族らは15日から慰霊祭を実施。なお9人が行方不明というところもあり、船体引き揚げや徹底的な原因究明を求めた。政府によると16日には全国120カ所以上で自治体や民間団体が関連